

15周年記念特別例会「ベトナムの風に吹かれて」

6月6日(火)午後3時50分から大森一樹監督トーク

会員のみなさんへ

加古川シネマクラブは、今年5月で15周年を迎えます。

会員は、200名を超える時もありましたが、現在140人を下回っています。運営は、昨年より大変厳しくなっています。

4月20日総会を開き、「どうしたら会員がふえるか」と検討！し、3連続15周年記念上映会を企画しました。一般の方も参加できるようにしました。

5月例会(6月6日)「ベトナムの風に吹かれて」=大森一樹監督トークあり

7月例会(8月3日)「この世界の片隅に」=お子さん、お孫さん誘ってね!

9月例会(日程未定)「湯を沸かすほどの熱い愛」を予定しています。

日本映画が3本続きますが、一人ふたりとお友達を誘って大いに参加ください。

映画をご一緒に楽しみましょう!

代表 山本芳明 津村晴子

例会のお知らせ

■名称/第90回特別例会『ベトナムの風に吹かれて』

■日時/6月6日(木) ①PM 1:50-、②PM 4:30-、
③PM6:40-(トークは、PM 3:50から30分間)

■場所/加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付/入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

■主催/加古川シネマクラブ

■後援/加古川市教育委員会

■その他/この例会は、特別例会として、一般の人も入場できます。

入場料金 一般/1,300円、シニア・障がい者・会員同伴者/1,100円

【例会作品データ】

■タイトル/ベトナムの風に吹かれて

■監督/大森一樹

■原作/小松みゆき

■出演/松坂慶子、草村礼子、藤江れいな、山口森広、貴山侑哉、斎藤洋介、松金よね子、柄本明、奥田瑛二、チャン・ニュオン、グエン・ラン・フーン、チャン・ハイン、ピン・スエン、ヴァン・パウ、ジェム・ロック、吉川晃司

■データ/2015年、ベトナム・日本合作、114分

■ジャンル/ヒューマンドラマ

■作品/ベトナム在住の日本人女性が認知症の母親との同地での生活を記した「越後のBaちゃんベトナムへ行く」を、「ヒポクラテスたち」などの大森一樹監督が映画化。認知症の老母をベトナムに呼び寄せた娘が、

現地の人々に支えられながら異国での介護生活に奮闘するさまを描く。

■ストーリー/ベトナムで日本語教師として勤務しているみさお(松坂慶子)は、父の死後に認知症が進んだ母シズエ(草村礼子)をベトナムに呼び寄せる。言葉は通じないが二人を温かく支えてくれる現地の人々との交流を通し、母は徐々に笑顔を取り戻して行く。しかし、ケガをしてしまい以前よりも母の介護が大変になる。その老いと向き合ったみさおは、母が自分に注いでくれた愛の深さに気付く。・・・

私の映画KAN

「美女と野獣」

津村晴子

1991年製作のアニメ版は、幼い頃の息子のお気に入り、何度も一緒に見た思い出のある作品です。この度の実写版は、公開前から前評判が高く、実写化でどうなるか?かなり期待してGWに鑑賞しました。

冒頭から懐かしい名曲が流れて、一気に物語の世界に引き込まれました。主役・ベル役の、エマ・ワトソンは、歌は決して上手ではないけど、賢くて勇気のあるヒロインを好演!ディズニーのファンタジー世界にはまっています。

また、数々の劇中歌、素晴らしい楽曲に、改めて名曲揃いの作品だと実感しました。綺麗な映像美を大画面で堪能出来て大満足!! 見終わった後、心があたたかく、清々しい気持ちになりました。原作愛に溢れた世界観が、現代の映像技術で美しく再現されているので、アニメ版ファンの方も大



可憐りしきる顔容から、熱気あふれるベトナムへ、人生の扉を開く。

満足の作品になると思います。

■題名／美女と野獣

■監督／ビル・コンドン

■脚本／ステイヴン・チョボスキー

■キャスト／エマ・ワトソン[ベル]、ダン・スティヴンス[野獣]、
ルーク・エヴァンス[ガストン]

■2017年、アメリカ、130分、ウォルト・ディズニー・ピクチャーズ、アニメーション

2017年度定例総会議案の要旨

4月20日(木)の午後7時過ぎから、**2017年度の加古川シネマクラブ定例総会**を行いました。昨年度と同様、事務処理が間に合わなかったことに加え、郵送料のことも気懸りで、事前に議案を会員の皆様に送付していなかったことをお詫びいたします。承認された議案は、例会会場で配付などして手渡し予定です。

まず、2016年度の活動報告と決算報告についてです。例会を中心とした通常どおり活動が行われ、事業内容についてはほとんど問題が無いのですが、最も大きな要因である会員数が少なかったため、当初計画より約14万円の減収が影響し、9万円余の未払金が発生しています。関係者の皆様には昨年度にも増して物品と労力の提供を受けたほか、兵庫県映画センター様からは映画事業の協力に対する礼金を多くいただくなど、支出減と収入増によく努めた結果でした。

役員を選任については、各人の都合による運営委員2名の減員がありました。

次に、2017年度の活動計画と予算についてです。何といっても、収入と会員数を増やすことを重要と考えます。収入増のため、一般の方からも観覧料をいただく特別例会を3回実施する計画としました。

昨年度、全国映連の映画大学を加古川で開催する方向を紹介しましたが、神戸市で開催することになったため、映画大学の計画はありません。

また、一昨年度から行っている明石シネマクラブとの交流事業である、それぞれの例会に両会の会員が参加できる例会相互参加事業は、好評で、経費負担もほとんどないことから、引続き続きます。

毎回説明しているとおり、200名近くの会員数にならないと会の活動が困難です。会員の皆さんには引き続き、入会者を増やすことについてご協力お願いいたします。

前回例会の報告

3月14日の例会では、美しい自然のなかで展開される青年教師が奮闘する現代のタイの若者を描いたタイ映画『すれ違いのダイアリー』を鑑賞しました。

見慣れない東南アジアの映画のためか「わからないところがあった。」という感想が多かったが、全体には「とても良かった」という評価が多かった。シネマクラブに入会していないと出会うことのない作品である。

参加会員86人、明石シネマクラブからの参加者6人で合計92人の参加者でした。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／『シアター・プノンペン』(2014年、カンボジア、105分)

■解説／これが初監督作となるカンボジアの新鋭女性監督ソト・クォーリーカーが手がけ、2014年の第27回東京



国際映画祭「アジアの未来」部門で国際交流基金アジアセンター特別賞を受賞した作品。

カンボジアの首都プノンペンに暮らす女子大生ソポンは、ある日、映画館で1970年代のポル・ポト政権下に作られた古い映画の存在と、そこに若き日の母が出演していたという事実を知る。しかし、母は自分が女優であったことを全く語ろうとしない。その映画をどうしても見たいと思うソポンは映画のフィルムを探し始め、ポル・ポト時代に蹂躪された母国の映画史を発掘していくことになる。

■監督・製作／ソト・クォーリーカー

■脚本／イアン・マスターズ

■出演／マー・リネット、ソク・ソトウン、トゥン・ソーピー

■日時／6月14日(水) ①PM2:00ー、②PM4:30ー、③PM7:00ー

■場所／アスパア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kalogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数134人(3月14日現在)

